

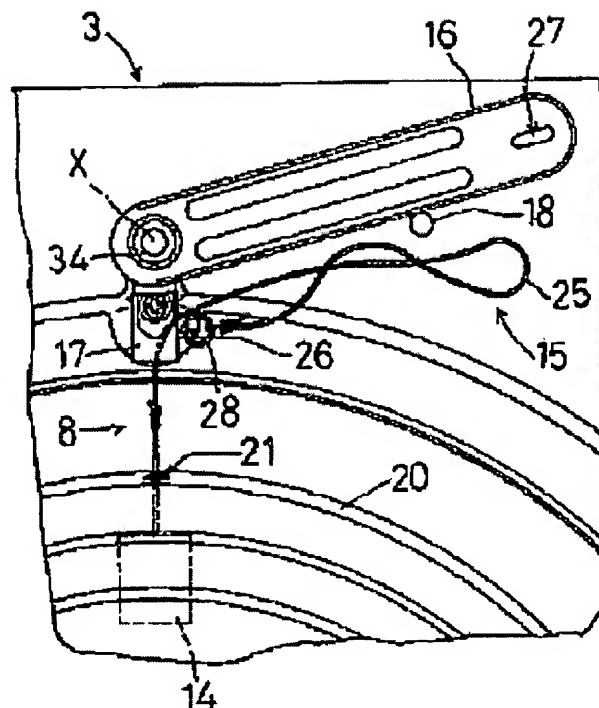
SWITCH DEVICE FOR LUMINAIRE

Patent number: JP6168619
Publication date: 1994-06-14
Inventor: SAKUMA HIROSHI; others: 03
Applicant: KOIZUMI SANGYO KK
Classification:
- international: F21V23/04
- european:
Application number: JP19920319847 19921130
Priority number(s):

Abstract of JP6168619

PURPOSE: To oscillate a guide arm for housing to the side for coming close to a luminaire main body under the condition that the guide arm and a pulling cord are disconnected in the case of transporting a luminaire under the condition that the guide arm is oscillated for housing to the side for coming close to the luminaire main body, and to install the pulling cord and a regulating member to the guide arm easily at the time of using a pull switch.

CONSTITUTION: A guide arm 16, in which a pulling cord 15 for operating the ON/OFF of a pull switch 14 is to be inserted and from which the pulling cord 15 is suspended more outside than the outer peripheral part of a luminaire main body 3, is fitted to a luminaire main body 3 freely to be oscillated to the side for coming close to the luminaire main body 3. A regulating member 26, which abuts on the guide arm 16 to regulate the draw-out of the pulling cord 15 from the guide arm 16 to the pull switch 14 side, is fitted to the pulling cord 15. A cord insertion part 27, in which a part of the pulling cord 15 close to the pull switch 14 side than the regulating member 26 can be inserted, is provided in the guide arm 16.



Data supplied from the esp@cenet database - Patent Abstracts of Japan

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-68619

⑤ Int. Cl.⁴

G 06 F 1/00

識別記号

1 0 2

庁内整理番号

F-7157-5B

④ 公開 昭和61年(1986)4月9日

審査請求 有 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 自動電源投入機構

⑰ 特 願 昭60-193729

⑱ 出 願 昭57(1982)5月10日

前実用新案出願日援用

⑲ 発 明 者 小 宮 充 男 秦野市堀山下1番地 株式会社日立製作所神奈川工場内

⑳ 出 願 人 株式会社日立製作所 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

㉑ 代 理 人 弁理士 小川 勝男 外1名

明 細 書

1 発明の名称 自動電源投入機構

2 特許請求の範囲

1. 時計機構および演算機構を有する処理装置と、その処理装置に接続される外部記憶で構成される計算機システム等に接続し、外部記憶装置に一定期間の電源投入スケジュールを記憶し、処理装置の時計機構からの時刻と、外部記憶装置からの電源投入スケジュールを処理装置の演算機構を使用して電源投入時間を演算し、その結果をセットできるカウンタ回路を設け、一定間隔のパルス信号でカウントし、カウンタが一定数になったときにシステムの電源を投入することを特徴とする自動電源投入機構。

3 発明の詳細な説明、

〔発明の利用分野〕

本発明は計算機システム等に接続し、システムの電源を自動的に投入する自動電源投入機構に関するものである。

〔発明の背景〕

図1は従来の自動電源投入機構の一実施例の接続を示す。

自動電源投入機構1は、電源投入日時を記憶する電源投入スケジュール記憶部2と、時間を計時する時計部3と、比較回路4と、リレー駆動回路5と、それらに給電する電源6で構成され、電源投入スケジュール記憶部2からの電源投入時刻PTと、時計部3からのその時の時刻NTとを比較回路4で比較し、一致がとれた時に一致信号CMPを発生させ、CMP信号でリレー駆動回路5を動作させ、リレー接点信号PONで処理装置の電源8を投入する自動電源投入機構がある。この場合、電源投入スケジュール記憶部2からの電源投入時刻と、時計部からのその時の時間とを比較回路4で処理装置の電源がオフの時にも比較していなければならないため、一般的に計算機等の処理装置が有している処理開始日時や経過時間を表示するための時計機構、演算機構を使用することができない欠点があった。

〔発明の目的〕

本発明の目的は処理装置が有する時計機構、演算機構および、処理装置に接続されている外部記憶装置を使用することにより、自動電源投入機構に固有な構成部品を減らすことにある。

〔発明の概要〕

本発明は処理装置の演算結果をセットできるカウンタ回路を設け、処理装置の電源がオンの時に、処理装置の時計機構からの時刻と、外部記憶装置に記憶してある電源投入時刻とを処理装置の演算機構を使用して、電源投入時間を演算し、その結果をカウンタ回路にセットし、カウンタ回路で電源投入時間を計時することにより、自動電源投入機構に固有な時計機構、電源投入スケジュール記憶部を不用にした。

〔発明の実施例〕

以下、本発明の一実施例を第2図により説明する。

第2図において、自動電源投入機構10は一定間隔のパルス信号を発生させるパルス発生回路

処理装置15の電源18はオフされる。

自動電源投入機構10は電源18とは別の電源11により動作しているため、電源18がオフされても、動作し続ける。

カウンタの内容が正数0から負数になる時にゼロ信号Bが発生する。

信号Bが発生した時に電源投入時刻になるようにNを設定してあるので、信号Bにより、リレー駆動回路13を動作させ、電源投入信号PONを処理装置の電源18に送り、電源18をオンする。カウンタ回路12を設けたことにより、電源18がオンの時に電源投入時間を演算し、カウンタ回路にセットしてしまい、その後はカウンタ回路側で計時するため、電源投入スケジュールは外部記憶装置19を、その時の時刻は処理装置の時計機構を使用でき、電源投入時間は処理装置の演算機構を使用し演算できるようになる。

〔発明の効果〕

本発明によれば、電源投入スケジュールの記憶は外部記憶装置を、その時の時刻は処理装置

11と、11からのパルス信号Pによりカウントするカウンタ回路12と、リレー駆動回路13と、上記10,11,12,13に給電する電源14により構成される。

処理装置15は時間を計時する時計部16と、演算部17と、処理装置の電源18で構成される。処理装置15に外部記憶装置19が接続される。外部記憶装置19に電源投入スケジュールを記憶しておく。

処理装置の電源18をオフするに先だち、電源投入スケジュールを記憶している外部記憶装置19から電源投入時刻PTと、処理装置の時計機構16のその時の時刻NTとを演算部17により、何時間後に電源を投入するかを演算し、その結果mとする発振回路11のパルス間隔をtとすると、 $mt = N$ となるカウント数Nをカウンタ回路12にセットする。

カウンタ回路12はパルス信号Pにより-1するようにしておく。

カウンタ回路12にNがセットされた後に、

の時計機構を使用できることになるので、自動電源投入機構に固有な、電源投入スケジュール記憶部、時計部が不用となる。

4 図面の簡単な説明

第1図は従来の自動電源投入機構の一実施例を示すブロック図、第2図は本発明の一実施例を示すブロック図である。

- 1,10……自動電源投入機構
- 2……電源投入スケジュール記憶部
- 3,16……時計機構
- 4……比較回路
- 5,13……リレー駆動回路
- 6,8,14,18……電源
- 7,15……処理装置
- 11……発振回路
- 12……カウンタ回路
- 19……外部記憶装置

